

高崎山 だより

No.96

takasakiyama dayori
2008.4.1

おさるガイドがおしえてくれる
高崎山のおんなこと、こんなこと。

「タクマ」は元気に育っています。



国立公園

高崎山
自然動物園

去年の12月に寂しそうにして
いるコザル(生後4ヵ月くら
い)がいました。どうも、母ザルがいないよ
うでした。

生後、4ヶ月くらいのコザルはまだ母
ザルのお乳で生活をしています。母ザルがいないコザル
は一生懸命小麦のエサを拾って生きようとしていました。

しかし、時間が経つにつれコザルの元気がなくなって
いきました。「このままでは死んでしまう」と思った係員は、
保護する事にしました。

なるべく人間に慣れないように(群
れ生活に戻れなくならないように)注
意しながら保護をして母ザル(母ザル
になってくれるサル)を探す事にしま
した。



1.

次の日、B群の3歳のメスがそ
のコザルを抱いてくれました。
しかし、私たち係員には不安
が残りました。そのメスは、まだ子育てをした
経験がなく、お乳も出ないのです。それでも、
コザルにとっては久しぶりの
ぬくもりを得ることができた
かもしれませんが、係員は
複雑な思いでした。



2

ている
とくつ
を発見
たがな
るよう
たった
のどが
体力
できる
事でい
ら次の

4.

保護をして5日目、待ちに待った出来事が起
こりました。コザルに興味を持つサルが現れた
のです。「テンテン」というC群のメスザルで、去
年出産をしていますからお乳が出るのです。「テンテン」しか
いないと思った係員は「テンテン」の前でわざとコザルに触
り刺激を与えてみました。知らない人が見るとサルをいじめ
ているようにしか見えないのですが、触る事によって「テン



テン」がそのコザルを守ろうという母
性本能を芽生えさせようとしているのです。すると「テンテン」が
係員に向かって威嚇をしてきました。コザルも「テンテン」の方に
近づいていきます。しかし、抱きません。係員も少し荒っぽくコザ
ルを抱き上げたりしながら「テンテン」の前にコザルを置きます。

その時です。「テンテン」がサッと手を出してコザル
をお尻に乗せたのです。一声に拍手が起きました。お
客様の中には涙ぐむ方もいました。しかし、コザルが
胸の中に入ろうとすると「テンテン」は拒みました。係
員たちは、また心配になりました。お乳を与えなけれ
ば、最初の3オのメスと一緒にです。その日「テンテン」
はコザルをお尻に乗せて、山に帰っていきました。



-独りぼっち

タ



3. 朝、緊張しながらコザルの様子を見に行くと昨日よりもかなり回復していて、鳴き声もあげていました。私たち係員は安心しました。

それから、みるみる体力を回復していったコザルを外に出し、母ザル探しの始まりです。しかし、なかなかコザルに興味を持ってくれるサルが現れませんでした。保護をして3日がたちましたが、コザルも他のサルに近づこうとしません。エサは自分で拾いにいけるようになりましたが、めくもりが欲しいからでしょうか、それ以外の時間はストーブの側から離れないようになりました。

お客様から「一人ぼっちでかわいそうだ。どうかしてほしい。」と言われ、係員たちも頭を悩ませました。



次の日、山から下りてきたB群の中に、そのコザルを探しましたが姿がありませんでした。突然、「こっちで死にかけて!!」と係員の叫び声が聞こえ、駆け寄って見たりしてかなり危険な状態であのコザルしました。すぐに保護をしてミルクを与えましたがなかなか飲んでくれません。「飲んでくれ!!」と祈る思いで与え続け、15分ぐらいででしょうか、わずかにゴクッと動きました。

的に弱っているコザルをただ暖かくして、「どうか無事ですよう!!」と祈りながら日を迎えました。



5. 次の日の朝、山からサルが下りてくる時に「テンテン」を探しましたがいませんでした。9:00のエサの時間も探しましたがいません。

係員が心配と不安の気持ちでいっぱいになっていた時です、木の上に座っているサルを発見しました。急いで木の下にエサを少し撒くと、木の上に座っていたサルは下りてきました。「テンテン」です。コザルは胸の中にしっかり抱かれています。

係員みんなで安心しました。これでコザルは育っていけます。このコザルには、たくましく育って欲しいと願いを込めて「タクマ」と名付けました。

現在、「タクマ」は友達も増え、名前の通りたくましく育っています。



だったコザル-

タクマ





TVの取材がありました!

この事件が起きたときに、偶然にもTVの取材がありました。「タクマ」が迷子になってから里親が見つかるまでの経過が放映予定なのでぜひ見てください。

どうぶつ奇想天外!

20:00~ TBS系
5月25日(日)放送予定



高崎山

サル物語

シラナイ

毎日1回B群へサツマイモのエサを与えています。その時間の前になると、必ず案内している係員のそばの柵に上がり、「おイモちょうだい。」と鳴くメスサルがいます。B群では2頭ほどいるのですが、そのうちの1頭が「シラナイ」です。「シラナイ」は毎日赤ん坊を連れて柵の上に来ます。

それが彼女の日課になっているようです。



さらに、「シラナイ」はストーブクラブ(冬場の寄せ場でストーブに毎日あたるサルたちのこと)と私たちが呼んでいるメンバーの会員で、毎日ストーブに子供たちや、姉妹と一緒にストーブにあたっています。

性格はおとなしく、すぐ隣にならんで写真が撮れるほどです。

「シラナイ」は手の指の一部分が白いので、みなさんでもすぐ見つけられると思いますよ。



お知らせ

「第3回 高崎山ニホンザル鳴き声選手権大会」参加者募集

今年も「第3回高崎山ニホンザル鳴き声選手権大会」を開催することになりました。サルの鳴き声のマネやパフォーマンスを競い、各賞入賞者には豪華商品(任天堂Wiiなど)をご用意しております。ふるってご参加ください。

日程:平成20年3月30日(日)13:00から
場所:高崎山自然動物園サル寄せ場
募集人数:20名(先着順)*当日参加募集10名
応募方法:*電話 097-532-5013(庶務係)

*インターネット
<http://www17.ocn.ne.jp/~takasaki/>

*はがき
それぞれ、氏名・住所・年齢をご記入ください。



大分市内の小学生は入園料が無料です。名札を見せて窓口にお申し出ください。

ご意見・ご要望をおまちしています



国立公園

高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1

Tel.097-532-5010 Fax.097-536-2500

<http://www17.ocn.ne.jp/~takasaki/>